

教育心理学

(単位数: 2)

担当教員:	平岡齊士 / 長岡 千香子		
必修/選択	選択	この科目では教育改善に使うための心理学の知識を自ら探し、使えるようになることを目的とする。最初に教育心理学について概観する。続いて「基盤的教育論」の「学習心理学の3大潮流」のトピックを振り返り、関連知識を踏まえて教育改善に心理学の知見を活用する練習をする。さらにARCSモデルの概要ならびにARCSモデルを支える諸理論を学ぶことで、心理学の知見を教育改善に用いるためのプロセスに触れ、自らの教育改善へのヒントとしてもらう。最後に科目全体で学んだことを使って、自らの教育改善案を考案する。	
開講年次	1前		
	1後		○
	2前		
	2後		
前提科目	基盤的教育論		
評価の方法	[課題1]「教育実践者と教育心理学研究者、あなたの立場は? (改訂版)」を提出する(15点) 教育心理学の知見をどのように実践に活用していくかを考えてプランを提出する。		
	[課題2]「第2ブロックを振り返って(改訂版)」を提出する(25点) ブロック2での学びを踏まえて、基盤的教育論での学びがどのように更新されたのかをまとめて提出する。		
	[課題3]「ARCSモデルについての考えの変化(改訂版)」を提出する(30点) 下記のいずれかを課題3として提出する。 ・ARCSモデルの成立プロセスとARCSを支える理論を踏まえて、任意の教育実践に対してARCSモデルを活用した改善案と、任意の動機づけ理論の知見を活用した改善案を提示して比較する。 ・第3ブロックでの学習内容を踏まえた上でタスク9の投稿内容を見直し、ARCSモデルの活用についての考えがどのように変化したかを述べる。		
	[課題4]「教育実践に心理学を活用するためのプラン(改訂版)」を提出する(30点) 第1、第2、第3ブロックを振り返って教育実践に心理学がどのように活用できるかを自らの活用プランの形で記述し、提出する。尚、タスク15での相互コメントの結果を踏まえることとする。		
内容	第1回 教育心理学をはじめよう		
	第2回 教育心理学の枠組み		
	第3回 教育と心理学		
	第4回 基盤的教育論の学習心理学の3大潮流を振り返る		
	第5回 行動主義		
	第6回 認知主義		
	第7回 構成主義		
	第8回 折衷主義		
	第9回 ARCSモデルを支える理論		
	第10回 ARCSモデルを支える理論-A		
	第11回 ARCSモデルを支える理論-R		
	第12回 ARCSモデルを支える理論-C		
	第13回 ARCSモデルを支える理論-S		
	第14回 ARCSモデルを支える理論-Vとまとめ		
	第15回 あなたの教育に心理学はどう貢献するか		